

■ご挨拶

再生可能エネルギーの普及に向けて

日本風力発電協会 理事 **安 茂**
ジャパン・リニューアブル・エナジー(株) 会長



はじめに

ジャパン・リニューアブル・エナジー株式会社（JRE）の安でございます。弊社は風力だけでなく、太陽光やバイオマス発電も手がけている、いわば再生可能エネルギーのデパートでございますが、今回は私どもの取り組みについてご紹介させていただきます。

JRE という会社

弊社は創業4年の会社であり、業界の中でも新参者でございます。また、報道等でも「ゴールドマンサックス系の再エネ会社」とのみ呼称されることが多く、再生可能エネルギーに対する投資を生業としている会社、外資系のクールな社風の会社と誤解される方も多くいらっしゃいます。

私どもが安定的な財務基盤を持っていることは確かですが、わが国に再エネ電源をスピード感を持って普及させたいという志の下、100名強のプロフェッショナルが集まり、再エネ案件の発掘、開発、建設に留まらず、その運営までを一体として行っている再エネの専門会社でございます。現時点で稼働している発電所は太陽光と風力合わせて130MWの規模ですが、2020年には1GW規模とすることを目指して活動しております。

JRE の強み

風力でも太陽光でも同様ですが、発電所を建設するためには様々なハードルをクリアしていく必要があります。その過程では地元の住民の皆様、行政、メーカー、金融機関等の様々な関係者との調整が必要です。本原稿の執筆に当たり、私どもの強みって一体何だろうかと再考しましたが、手前味噌で恐縮ですが「人」とあるという結論に至りました。

再エネ普及に一番大事なものは技術や設備以上に、人です。再エネ電源の普及が持続可能な社会の創造に資するんだという強い信念を

持ち、そしてハードルの多い難しい案件であってもそれを成り立たせるために不屈の精神で関係者の協力を仰ぎ、信頼を得て利害を調整し、スピード感を持って案件開発を推進できる人。幸いなことに、弊社はこんな人たちに恵まれ、私も日々楽しく仕事できています。特に風力の開発については、業界全体で系統の問題、環境影響評価の問題など抱えておりますが、人材力でもってこれら困難な課題に引き続き立ち向かっていきたいと決意を新たにしました。

今後の方向性

わが国は、輸入燃料依存、中央集権型のエネルギー供給構造であり、各国が内向き化する世界情勢や自然災害の多発の中でその脆弱性が指摘されてまいりました。釈迦に説法ですが、再エネは環境にやさしい持続可能な電源であるだけでなく、わが国の安定的な電力供給のための電源であり、また、自然災害等にも強い地域に根ざした電源でもあります。

私は再エネ導入の加速化が間違いなくわが国が抱える課題を解決するものと確信しており、このためには業界内のよい意味での「協創」と「競争」の両立が重要と考えています。従来電源偏重の世の中の考え方に対しては業界が一致団結して立ち向かい、新たな価値観を創っていく必要があります。他方で、市場経済においては再エネ電源がいつまでもFIT下で下駄を履いている状態であることは不健全ですので、かつての自動車業界のように業界内の各社が切磋琢磨し、質とコストの両面でより高みを目指していくような健全な戦いも必要です。この両方において弊社が重要な役割を演じ、結果としてわが国の再エネ推進に貢献したいと考えておりまして、本協会での活動もこの観点から強化していきたいと思っております。

末筆になりますが、本協会の発展のため、微力ながら引き続き尽力してまいりますので、よろしく申し上げます。